

情報連絡員報告

(令和7年10月期)

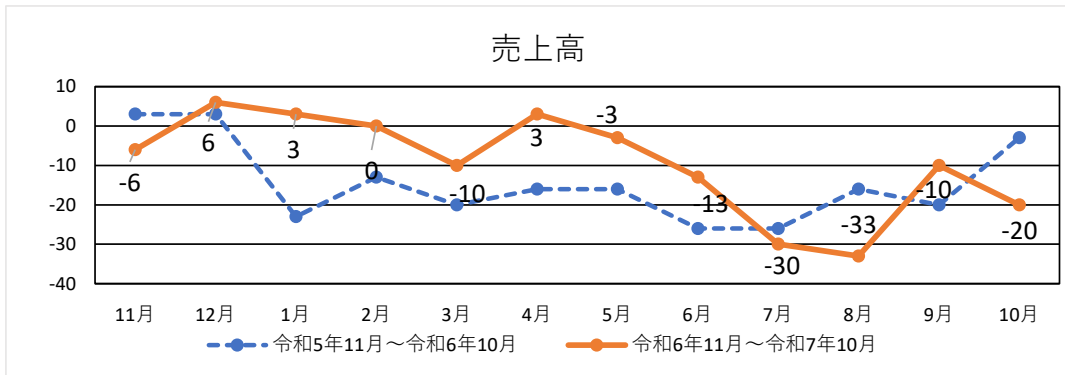
情報連絡員 30名
回答者数 30名

全体概況

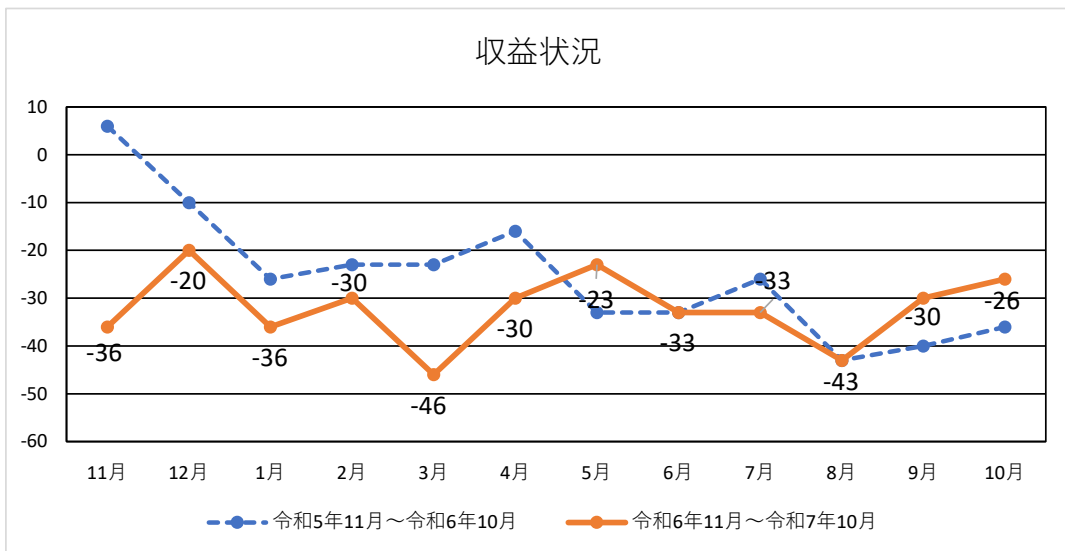
DI値は、前月と比較して、売上高は10ポイント低下、収益状況は4ポイント改善、業界景況は6ポイント改善となった。

1 主要3指標DI値推移

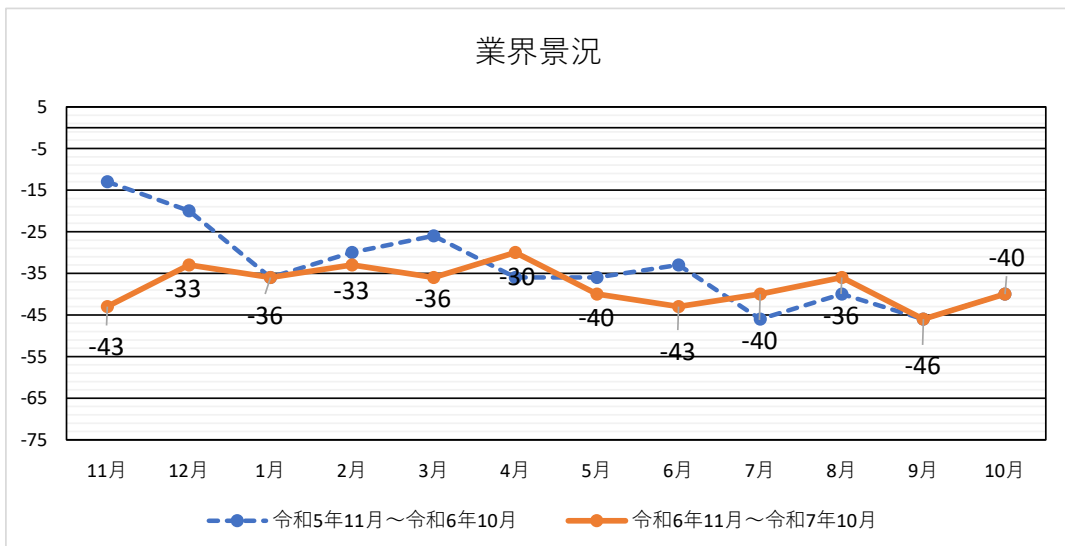
(1) 売上高



(2) 収益状況



(3) 業界景況



2 前年同月比の業種別景気動向

(DI値)

		売上高	収益状況	業界景況
製造業	食料品	→	→	→
	木材・木製品	↘	→	↓
	出版・印刷	↓	↓	↓
	窯業・土石	→	↑	↓
	鉄鋼・金属	↓	→	→
非製造業	卸売	↑	→	↓
	小売	→	↓	↓
	商店街	↓	↓	↓
	サービス	→	↘	↘
	建設	↘	↘	↘
	運輸	↓	→	↓

↑ ↗ → ↘ ↓

(30以上) (10~30未満) (△10~10未満) (△30~△10未満) (△30未満)

※DI値 = [(増加・好転組合数 - 減少・悪化組合数) / 調査対象組合数] × 100

※網掛けについては、特に悪化した項目

報告者名

宮崎県中小企業団体中央会

報告年月

令和7年10月

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製造業	木材・木製品	製材業	秋の需要期(秋需)に期待していたものの、今年はそうした需要の発生が見込めない状況である。住宅着工数が伸び悩むなか、大手ハウスメーカーが地元にも参入してきている。大手企業には容易に太刀打ちできないため、今後は従来とは異なる手法で、日々模索しながら事業に取り組んでいく所存である。
	木材・木製品	製材業(プレカット)	10月の生産坪数は、先月比で約15%減、前年同月比でも約15%減の状況となった。例年であれば9月から12月は業界の繁忙期にあたる期間であるが、今年も含めてここ数年は繁忙期としての雰囲気は全く感じられない。廃業する同業者の話も出始めており、淘汰が進行する時代に入ったことを肌で感じている。昨日の紙面には、全国の住宅着工数が4月から9月までの6ヶ月連続で減少しているとの記事が記載されており、特に注文住宅の減少が大きいとのことである。
	木材・木製品	木製品製造業	物価高の影響により、住宅の新築件数がかなり減少しており、需要の減少を感じる。
	印刷	印刷・同関連業	この3か月間は、受注が大幅に減少した。これはこれまでで最も大きな減少であり、それに伴い稼働率も低下している状況である。受注の確保が困難になっていることに加え、最低賃金の上昇が経営を圧迫している。民間においては価格転嫁について理解を得られているようであるが、官公需においては、いまだに実現に至っていない。
	印刷	印刷・同関連業	取引先より、10月から用紙が値上げされるとの通知があった。現在のところ、実行に移されている事例はほとんど見られないが、近いうちに値上げが実行されることは確実であると見られている。その際、利益を確保するための具体的な手段をどのように講じるかについて、直近の役員会にて聞き取りを実施する予定である。
	窯業・土石製品	窯業・土石製品製造業	10月単月の出荷数量は前年同月比67%、累計では前年同月比80%となった。出荷量は予算通りではあるものの、前年比で2割減である。組合員の経営状況を聞き取りながら、来期の販売単価について検討を進める。
	窯業・土石製品	窯業・土石製品製造業	前年同月と比較すると182%、累計では77.5%となる。販売価格は値上げ済みであるが、この数値はさすがに少なすぎる。10月以降の高速道路関連の出荷が順調に推移することを期待する。
非製造業	卸売業	卸商業	最低賃金の上昇に伴い、パートタイマーの就業可能時間は減少していく傾向にある。
	小売業	機械器具小売業	中古車市場においては輸出が活発化し、25年度上期は過去最高を更新した。その影響で、流通における中古車価格が高騰し、全国的に海外バイヤーに買い負ける事態が多発しており、中古車販売店の倒産が相次いでいる。宮崎においては、過去に鹿児島、熊本で発生した豪雨災害により車両が被災した結果、代替車両の需要が集中し、中古車は高値となった。中古車を取り扱う組合員は、高値により車両が仕入れられないという問題に直面している。さらに、整備士不足も影響し、仕事は入るものの手がつけられないといった問題を抱える組合員も少なくなく、外国人材の登用を検討している組合員もいる。11月の最低賃金引き上げも、今後の経営における課題となる見通しである。
	小売業	LPGガス小売販売業	10月合成CP価格(サウジ通告価格)は507.5 ^{ドル/トン} (前月比△12.5 ^{ドル/トン})。9月MB価格(米国産平均価格)+(物流経費90 ^{ドル/トン})は446 ^{ドル/トン} (前月比+9.0 ^{ドル/トン})。対顧客電売相場(9月平均)は148.99 ^{円/ドル} (前月比+0.28 ^{円/ドル})。原油価格はOPECプラスのさらなる増産検討、また、ウクライナによるロシア輸出港湾や製油所へのドローン攻撃等の要因で小幅な値動きこそあったものの前月比でほぼ横ばい。LPG価格についてはMB価格は微増、CP価格は不需要期も終わり冬季に向け上昇するとの大方の予想に反し下降した。
	商店街	宮崎市	時間帯に関わらず、商店街の人通りが少ない状況が続いている。
	商店街	都城市	10月にもかかわらず、30度を超える日が多かった。本来、行楽シーズンで外出頻度が上がるはずであるが、日中の気温が高いと人出が少なくなる傾向にある。一方で、プロ野球チームの試合やキャンプが始まり、県内外から来客があったため、週末などは球場付近が賑わった。イベントなどもまちなか広場で開催され、多くの人々が来場していた。今後は、来場者が商店街を回遊してくれることで更なる賑わい創出につながるが、来場者を受け入れる店舗数が少ない状況では、その効果を十分に発揮できていないのが現状である。

報告者名

宮崎県中小企業団体中央会

報告年月

令和7年10月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
サービス業	観光業	準備万端を整え、10月の繁忙期に入った。仕事量は前年とほぼ変わらない状況である。月末になり急に冷え込んできたため、12月上旬まで続くシーズンを無事乗り越えられるよう、体調管理に留意していきたい。
サービス業	自動車整備業	今月の在庫台数は微減であった。しかしながら、人手不足の現状では、仮に在庫台数が増加したとしても、十分に対応できるか否かについて懸念が残る状況である。
サービス業	自動車運転代行業	10月は閑散期ではあるが、今年は繁華街への人出が例年にないほど少ない。その原因が新型コロナウイルス感染症（コロナ）によるものか、インフルエンザによるものかは不明である。税や社会保険料などの負担率が高いことも、人出が減少している原因の一つであると考えられる。
建設業	管工事業	国土強靱化の観点から、水道施設工事においては、老朽管の入れ替えが今後ますます増加すると予想される。しかしながら、管工事全体においては、大型物件の減少から厳しい状況にある。
運輸業	軽貨物運送業	10月度は、若い新規加入者2名を迎え、減少傾向にわずかながら歯止めがかかった。高齢化の影響により売上は若干減少している一方で、仕事量が増加しても対応に苦戦しているのが現状である。運賃料金改定の依頼等も行っているが、前向きな回答はほとんど得られず苦慮している。他の貨物軽自動車運送事業者も同様の状況であり、経営環境は悪化の一途を辿っていると考えられる。
運輸業	貨物運送業	原油価格は、ロシアによる北大西洋条約機構（NATO）加盟国への領空侵犯や、ウクライナによるロシアの石油関連施設への攻撃などによる供給不安に加え、米国の利下げ再開観測によるドル安進行などから上昇した。これに伴い、国内市場価格も上昇し、値上げとなる見込みである。組合員は高値で推移する価格に困惑している。